

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(砂防) 平成29年度採択テーマ 中間評価結果

テーマおよび概要		提案者名	中間評価コメント
テーマ	大規模土石流発生流域における土石流監視体制および対策の高度化	静岡大学 大学院農学領域 准教授 今泉 文寿	本研究は順調に進捗しており、今後の研究の発展に期待する。
概要	富士山大沢川流域において土砂生産量、および土砂貯留量の時間的な変化を明らかにし、それらと土石流の発生条件や流下土砂量との関係性を明確化する。これをもとに土石流監視体制および土石流規模の予測手法を検討する。		
テーマ	UAV搭載型LP計測を用いた北海道十勝川水系における山地河川地形変化の把握	北海道大学 大学院農学研究院 准教授 笠井 美青	貴重な観測データが得られているが、今後は砂防施設など砂防事業への展開を見据えて研究を進められたい。
概要	平成28年の台風10号で地形が大幅に変化した十勝水系の河川を対象に、UAV搭載型LPによる定期計測を行う。そして各河川区間の地形・地質的特徴、施設の入り方と地形の変化との関係を明らかにし、河床変動の予測や砂防施設の評価を行う。以上より得られた知見を基に、山地河川対象のUAV定期調査計画を作成する。		
テーマ	地形発達史の視点から表層崩壊による土砂の生産・移動履歴を評価した土砂流出モデルの開発	山梨大学 大学院総合研究部 准教授 後藤 聡	今後研究を進めるにあたり、研究目的を明らかにし、土砂流出モデルの各パラメータの設定根拠を示すと共に、実流域への適用について検証を行うことを条件として研究を継続する。
概要	LIDARデータ及び現地調査により表層崩壊の発生場・発生規模の履歴特性について考察し、地形発達史の視点から表層崩壊による土砂の生産・移動履歴を評価し、土砂流出モデルの開発を行う。		
テーマ	奥飛騨における大規模土砂災害対策に資する土砂動態把握手法の高度化	京都大学 防災研究所 准教授 堤 大三	本研究は順調に進捗しており、次年度の観測結果に期待したい。
概要	奥飛騨における大規模土砂災害対策に活用することを目的に、土砂流出の著しい砂防河川における流砂量間接計測手法の高度化を図り、年間を通した流砂量を実用的に計測し把握する。		
テーマ	既設砂防堰堤の長寿命化に関する検討	京都大学 防災研究所 教授 藤田 正治	本研究は砂防施設への利活用が大いに期待できるものの、期限内で所定の成果を上げるためには研究の進捗が必要である。
概要	常願寺川や近隣の流域の施設を対象として、砂防堰堤の損傷形態の分類、損傷の要因分析、補強・補修に関わる調査手法について検討するとともに、現行設計基準に基づく堰堤の危険度評価、補強・補修策の実行可能性、さらにはコスト縮減を目指す新たな補強・補修のための設計法と補強・補修工法を検討する。		

(五十音順、敬称略)